

展示室 1 英国 19 世紀末美術と日本



オーブリー・ピアズリー
「おまえの口に口づけしたよ、ヨカナーン」

時に芸術家たちは、自国とは異なる文化に触れることで、新たな作風を生み出しています。19世紀末、日本の開国に伴ってヨーロッパに浮世絵や陶磁器といった日本の美術作品などが大量にもたらされると、社会現象ともいえるべき日本ブームが各地で巻き起こりました。それは、後期ヴィクトリア朝の英国でも例外ではありませんでした。日本美術に魅せられた真の芸術家たちは、単に流行に乗ったり、模倣に甘んじるだけではなく、日本美術のエッセンスを取り入れ、消化させながら創造性に満ちた制作を行っています。今回の特集では、日本美術との影響関係が深い、英国の美術作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
チャールズ・ワーグマン	西洋紳士スケッチの図	1870年代	油彩・キャンバス
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	日光の茶屋	1890	油彩・板
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	雪の京都、祇園へゆく道	1891	水彩・紙
サー・アルフレッド・イースト	雨後の傘干し	1889～90頃	水彩・紙
サー・アルフレッド・イースト	荒れ模様		水彩・紙
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	箱根の秋		水彩・紙
モーティマー・メンペス	新芝居見物	1887年頃	エッチング、ドライポイント・紙
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	早朝	1878	リトチント・紙
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	船着場		エッチング・紙
ウォルター・シッカート	カフェの中		油彩・キャンバス
フランク・ブランギン	花園		油彩・板
オーブリー・ピアズリー「ブルーフ集」より			ラインブロック・紙
・おまえの口に口づけしたよ、ヨカナーン			
オスカー・ワイルド著『サロメ』挿絵より（『ステューディオ』創刊号）		1893	
・アリババ		1896	
・『イエローブック』ポスターのためのデザイン		1894	
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868～84	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	キリストの昇天	1875	チョーク、墨・紙
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	アヴァロンにおけるアーサー王の眠り	1894	グワッシュ・紙
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フラワー・ブックより	1905	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
・ヴィーナスの鏡			
・天の梯子			
・世界の驚き			
・白い庭			
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダーブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デガムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス

展示室 2 蜷川式胤と亀井至一・竹二郎



「亀井竹二郎
(石版『懷古東海道五十三驛真景』油彩原画より
(吉原驛 暁霧望富士山))

亀井至一（1843～1905）と竹二郎（1857頃～1879）は、江戸の下町で職人の家に生まれた異父兄弟でした。ともに絵が得意だったことから、写真家で洋画も手がけた横山松三郎に弟子入りし、その後、版画工房・玄々堂に入って石版画と洋画を制作しました。

京都の公家として生まれた蜷川式胤（1835～1882）は有職故実に通じ、明治新政府の諸制度立案業務に当たりました。特に社寺宝物調査や博物館建設推進という功績を残した人物です。

古いものを記録・保存するという意識が強かった蜷川にとって、写真はいうまでもなく、石版画や洋画はその恰好の手段であったと考えられます。亀井兄弟と蜷川との関係はまだ詳しくわかっていませんが、時代の流れとともに蜷川がふたりの画家を育てる大きな力となったことは間違いないといえるでしょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈・寄託
蜷川式胤	明治十年徴募巡查不二川ヲ通行スルノ図	1880(明治13)	混合技法・板	寄託作品
蜷川式胤	山城国上賀茂景	1880-81(明治13-14)	混合技法・板	寄託作品
亀井至一	東京上野之景	1874(明治7)	油彩・キャンバス	寄託作品
亀井竹二郎	大和国春日ノ神社ノ若宮ノ夜景	1875-78(明治8-11)	油彩・キャンバス	寄託作品
亀井竹二郎	大和国龍田川景	1876-78(明治9-11)	油彩・紙	寄託作品
亀井竹二郎	蜷川与志肖像	1877(明治10)	油彩・キャンバス	寄託作品
亀井竹二郎	老女肖像		油彩・キャンバス	寄託作品
疋田敬蔵	蜷川式胤・辰肖像	1898(明治31)	油彩・キャンバス	寄託作品
亀井至一	『観古図説』Ⅰ～Ⅳ	1876-77(明治9-10)	石版・紙／冊子	
下国鼎之助	『観古図説』Ⅴ	1877(明治10)	石版・紙／冊子	
亀井至一	車駕臨御大坂陸軍臨時病院親自吊慰之図	1878(明治11)	石版・紙	
亀井至一	東京隅田堤之景	1882(明治15)	石版・紙	
亀井至一	東京不忍弁天景	1882(明治15)	石版・紙	
亀井至一	常盤雪中抱孤出図	1882(明治15)	石版・紙	
亀井至一	芸妓之図	1882(明治15)	石版・紙	
亀井至一	東京下谷芸妓小幾	1883(明治16)	石版・紙	
亀井家伝来資料より	スケッチブック他			亀井よし子氏寄贈
亀井竹二郎	〈石版『懷古東海道五十三驛真景』油彩原画〉から26点	1877-78(明治10-11)	油彩・紙	
	『懷古東海道五十三驛真景』から5点	1891-92(明治24-25)	石版・紙	
	『懷古東海道五十三驛真景』	1891-92(明治24-25)	石版・紙／画帖	山鹿英助氏寄贈
疋田敬蔵	北海道小樽港有幌之景	1881(明治14)	石版・紙	

展示室 3. 4-1 版で発信する作家たち



斎藤 清「珊瑚」

版画は、直接筆などで描く油彩画や日本画とは違い、版を制作し（製版）、別の素材に写し取ることによって完成する画です。多くの作家がこの表現方法に魅せられ、版画作品を生み出してきました。版画には木版、銅版、リトグラフ、シルクスクリーンなど様々な版種がありそれぞれ表現の特質が違います。今回は展示室の3室と4室の一部を使い、版画の特集展示を行います。版で発信する作家たちの多種多様な「版」の世界をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈・寄託
長谷川 潔	シャトー・アルヌの寺院	1932 (昭和 7)	メゾチント・紙	
駒井哲郎	調理場 (La Cuisine)	1958 (昭和 33)	エッチング、アクアチント・紙	
駒井哲郎	Juin 球根たち	1960 (昭和 35)	エッチング、アクアチント・紙	
駒井哲郎	貝 (Coquillage)	1962 (昭和 37)	エッチング、アクアチント・紙	
中林忠良	囚われる日々 II	1974 (昭和 49)	エッチング、アクアチント、メゾチント、ティンブエッチング・雁皮紙	
中林忠良	Position' 80・腐蝕	1980 (昭和 55)	エッチング、アクアチント・雁皮紙	
中林忠良	転位 '90 -地- I	1990 (平成 2)	エッチング、アクアチント・紙	
斎藤寿一	波と月 (B)	1964 (昭和 39)	ティンブエッチング・紙	斎藤聆子氏寄贈
斎藤寿一	魚	1958 (昭和 33)	ティンブエッチング・紙	斎藤聆子氏寄贈
浜田知明	女	1960 (昭和 35)	メゾチント・紙	
浜田知明	『見える人』より	1975 (昭和 50)	エッチング、アクアチント・紙/ポートフォリオ	
浜口陽三	西瓜	1981 (昭和 56)	メゾチント・紙	
岩谷 徹	落日-森	1985 (昭和 60)	メゾチント・紙	
岩谷 徹	能シリーズ 15 -水	1990 (平成 2)	メゾチント・紙	
安部直人	胎芽 II	1993 (平成 5)	エッチング、メゾチント・紙	
安部直人	転生	1994 (平成 6)	エッチング、メゾチント・紙	
安部直人	内なる領土より (隆起 II)	1998 (平成 10)	エッチング、メゾチント・紙	
斎藤 清	珊瑚	1955 (昭和 30)	木版・紙	
斎藤 清	青沼、裏磐梯、会津	1955 (昭和 30)	木版・紙	
斎藤 清	ヌード 10	1964 (昭和 39)	コラグラフ・紙	
吉田穂高	野宴	1959 (昭和 34)	木版画・紙	
吉田穂高	私のコレクションより-坂道の家、P.M.-	1982 (昭和 57)	木版、亜鉛凸版・紙	
吉田穂高	私のコレクションより-錆色の壁-	1992 (平成 4)	木版、亜鉛凸版・紙	
秋山泰計	競馬	1985 (昭和 60)	木版・紙	
秋山泰計	バス停 (ミニチュア)	1982 (昭和 57)	木版・紙	
柄澤 齊	『死と変容 II 洪水』より	1990 (平成 2)	木口木版・紙/ポートフォリオ	
東谷武美	ベビーの実	1988 (昭和 63)	リトグラフ・紙	
東谷武美	日蝕 U	1989 (平成元)	リトグラフ・紙	
東谷武美	沈む夜	1991 (平成 3)	リトグラフ・紙	
木村利三郎	City 82	1969 (昭和 44)	シルクスクリーン・紙	
木村利三郎	City 337	1983 (昭和 58)	シルクスクリーン・紙	
木村利三郎	City 426	1977 (昭和 52)	シルクスクリーン・紙	
池田満寿夫	S字型のヘビ	1962 (昭和 37)	ドライポイント、エッチング・紙	
池田満寿夫	空の寝台	1962 (昭和 37)	エッチング、メゾチント、ドライポイント、ルーレット・紙	
草間彌生	Infinity Nets 無限の網	1953~84 (昭和 28~59)	エッチング・紙	
草間彌生	かぼちゃ	1985 (昭和 60)	エッチング・紙	
草間彌生	ENDLESS エンドレス	1985 (昭和 60)	エッチング・紙	
土橋 醇	無題		リトグラフ、手彩色・紙	大河原有重氏寄贈
土橋 醇	無題	1960 (昭和 35)	リトグラフ・紙	兜屋画廊寄贈
吉原治良	円・赤	1969 (昭和 44)	シルクスクリーン・紙	
菅井 汲	ヴァリアシオン	1980 (昭和 55)	シルクスクリーン・紙	

展示室 4-2 『北斎漫画』と工芸デザイン



クリストファー・ドレッサー
「色絵蝶花模様瓢箪壺」

19世紀末のヨーロッパの芸術界に巻き起こった「ジャポニスム」の旋風—影響を受けた芸術家といえばモネやゴッホといった画家が有名ですけど、工芸デザインの世界でも「ジャポニスム」の洗礼を受けたデザイナーたちがいます。ガレやラリックもそうです。しかし、実際に日本を訪れたデザイナーといえばクリストファー・ドレッサーです。

1876（明治9）年に来日したドレッサーは、そのときの見聞を『日本—その建築・美術・工芸』という本にまとめました。そのなかには『北斎漫画』に掲載されている図の転載がたくさん見られます。『北斎漫画』は江戸時代末期に、あのシーボルトがオランダへ持ち帰って以来、さまざまな形でヨーロッパへ渡りました。ドレッサーも来日以前に『北斎漫画』の存在を知っていたと思われますが、実際に日本各地を巡り歩くことでさらにその理解を深めたと思われます。今回は、ドレッサーの「ジャポニスム」的な作品をとおして『北斎漫画』の影響を見てもらおうと思います。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈・寄託
クリストファー・ドレッサー	染付鳥文壺		磁器	
クリストファー・ドレッサー	染付鳥波濤文把手付鉢		磁器	
クリストファー・ドレッサー	緑釉龍波濤文水差	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	褐釉瓢箪型花瓶	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	緑釉蓮花刻文皿	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	黄釉和風竹節型小皿	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵花鳥模様壺	1892-95 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵蝶花模様瓢箪壺	1892-95 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵金彩竹梅文水差		磁器	
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様長皿	1886	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様大皿	1886	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様皿とボウルのセット	1886	陶器	
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	トーストラック（楕円形）		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	レター・ラック（円形、可動式）		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー著	『日本—その建築、美術、工芸』	1882 刊		
各務鑑三	クリスタル花瓶《鱗影》	1970 頃	宙吹き・気泡封入、グラヴール	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車	1980-82 頃	宙吹き・ブランツ	
吉田丈夫	クリスタル瓶《瓢》		宙吹き	田淵十一氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈・寄託
●1階展示ロビー				
アントニー・ゴームリー	量子雲XⅢ	2000	ステンレス、スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域XⅢ	2000	ステンレス、スチール棒	
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
●1階サブエントランス				
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
●2階展示ロビー				
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
柳原義達	女の首	1958(昭和33)	ブロンズ	
木内 克	女の顔	1965(昭和40)	石膏・顔料	和田敏文氏寄贈
佐藤静司	子供頭部	1955(昭和30)	木	佐藤静司氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1・2		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	寄託作品
●屋外				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	

※作品は都合により一部展示替えを行うことがあります。